

令和3年度 印西市家庭教育学級だより

かてきょう通信

2月号

NO.12

「子育ては、自分育て」～家庭・地域の絆のために～



2月は逃げる月といわれます

新しい年が明け、1か月がたちました。2月は、「逃げる」、3月は「去る」とたとえられ、4月からの新しい年度へ向けて、慌ただしい頃となっていきます。体調に気を付け、元気に年度末をしめくくりたいものです。

家庭教育学級も今年度のまとめとして、『第二回運営委員研修会』の開催を予定していました。すでに運営委員様には、開催文書を送付しておりましたが、現在の新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み、中止といたします。この運営委員研修会でお渡しする予定であった資料は、後日学校を通してお渡しいたします。運営委員の皆様、反省等のご報告、ありがとうございました。またご意見の一部は、『かてきょう通信』でお伝えいたします。

さて、一般的に『子どもは、ほめて育てましょう。』と言われます。しかし、次のような言葉もあるのでご紹介します。ほめ方・叱り方の参考になるかもしれません。

叱られたりほめられたりして育った人は、叱られたりほめられたりしないと行動しなくなる。そして、評価してくれない相手を敵だと思ってしまうのだ。 by アドラー

ポイントは、『ほめずに感謝・叱らずに考えさせる』なのだそうです。例えば……
★「お手伝いできて偉いね。」 → 「お手伝いしてくれてありがとう！」
★「なんでご挨拶できないの。」 → 「どうしたら、ご挨拶できるようになるかしら。」

勿論、きちんと評価して、ほめたり叱ったりすることは、場面に応じて必要です。しかし、おざなりな（心のこもっていない）その場しのぎのほめ方・叱り方では、子どもにはきちんと伝わりません。子どもの心に響かず、育ちにはつながらないのだそうです。

子育ては、なかなかマニュアル通りにはいきません。一朝一夕にもできません。子どもが感謝の心を持ち、自分なりに考えて行動できる人に成長していくためには、その手本となる愛あふれる言葉を親が辛抱強く投げかけることが大切です。『子どもは親の鏡』なのです。

◇お問い合わせ◇

印西市教育委員会

教育部生涯学習課 推進係（担当 鳩・海老原）

【電話】 0476-33-4713

【FAX】 0476-42-0033



子育ては自分育て